世界銀行によるプロジェクト

インド“Technical Support for Advanced Forecast of Rainfall and Reservoir Inflow for Optimized Reservoir Operation”（貯水池運用の最適化のための降雨量と貯水池流入量の高度予測に関する技術支援）

2025 年 3 月 14 日～2025 年 12 月 31 日の契約期間で、世界銀行からインドにおける「貯水池運用の最適化のための降雨量と貯水池流入量の高度予測に関する技術支援」プロジェクトを受託しました。今回のプロジェクトでは、独立行政法人 水資源機構（JWA）と協力しながら、次の業務を行いました。

1) 高度な降雨・貯水池流入予測システムの導入と改善可能分野の評価
2) 先進的な降雨・貯水池流入予測システムを導入し、最適化された貯水池運営を行うための評価
3) 高度な降雨・流入量予測および統合貯水池運営システムに関する 2 回のオンライン知識共有研修、および現地視察を含む日本でのハイブリッド研修
4) インドの学術研究機関と共同で実施する知識交換プログラムの提案

2025 年 5 月 12 日から 16 日にかけて、インドのカルナータカ州及びアンドラ・プラデシュ州を流れるクリシュナ川流域のダムの操作の課題や洪水防御の要望を把握することと、解析に必要な現地の災害記録情報や観測データ等を収集することを目的として、小池俊雄センター長はじめ複数の ICHARM 研究員が現地調査及び関係機関との協議に参加しました。



写真 1 カルナータカ州水資源部との打合せ風景



写真 2 Almatti Dam の視察

2025 年 11 月 18 日から 21 日にかけて、ICHARM が主体となり「日本のダム群における統合貯水池運用に関する現地視察とワークショップ」を実施しました。これは、日本の先進的な降雨予測と貯水池運営システムの視察や、ICHARM、JWA による技術講習を通し、インド政府職員のダム貯水池管理の基礎的能力を強化することを目的に実施したものです。インド政府及び世界銀行から計 8 名、JWA からは 3 名が参加し、四国・近畿のダム施設現地視察と ICHARM 研究員、京都大学の角哲也特定教授、JWA 職員による講義（気候変動、降雨予測、貯水池流入量予測、ダムの堆砂対策、ダムの安全管理など）を実施しました。また、国土交通本省への表敬訪問も実施しました。